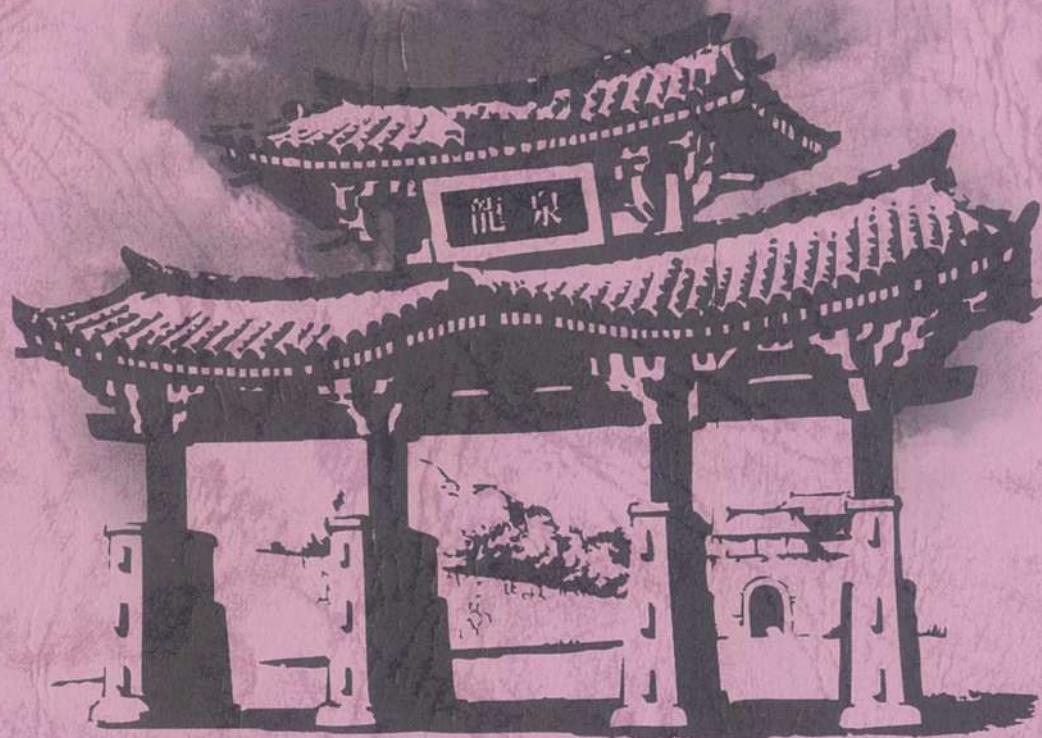


平成22年度

沖繩県海外留学生修了報告書



沖 繩 県

財団
法人

沖繩県国際交流・人材育成財団

はじめに

海外留学生受入事業は、沖縄県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がりの深いアジア諸国から優秀な人物を県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらうことにより、本県と移住先国及びアジア諸国等との友好親善の推進に寄与する人材の育成を目的としています。

昭和44年度（1969年）の事業開始以来、本年度を含め565人の留学生を受け入れてきました。留学を修了し帰国した留学生は、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成22年度は、北米、南米及びアジアの5ヶ国1地域から11名を受入れ、そのうち8名が琉球大学、2名が沖縄県立芸術大学、1名が名桜大学において勉学等に励みました。1年間の沖縄滞在を通して、沖縄の歴史や文化等について深く学ぶとともに、お互いの交流を通して友情を育み、ウチナーネットワークを身近なものにすることができたと思います。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

また、今年10月には第5回世界のウチナーンチュ大会を実施いたします。同大会では、ウチナーネットワークとウチナーアイデンティティーを次世代に継承し、世界に向けた新たなネットワークの展開を推進したいと考えております。皆さん一人一人が新たなネットワークの担い手として、同大会に積極的に関わることを期待しております。

当事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成23年3月

沖縄県観光商工部長 勝目 和夫



平成22年度沖縄県海外留学生修了式 平成22年3月9日 於：サザンプラザ海邦



安里副知事表敬 平成22年5月28日（金） 於：県庁第2特別会議室



仲村財団理事長表敬 平成22年5月28日（金） 於：県庁第2特別会議室

目 次

○海外移住者子弟留学生（8名）

・おきなわドリーム	マキシ ヲイ 真喜志 恵 エリザベス ……………	1
・沖縄で過ごした一年	クック マリコ ミッシェル……………	3
・沖縄の魔法と魅力	キシモト ソウザン 岸本 津嘉山 ディアナ タカエ 高枝 デリア ……	6
・初めて沖縄	マフカマ 前外間 エリカ……………	9
・沖縄、イッペーニフェーデービル	ウチマ ヤビキ 内間 屋比久 マリエラ イネス ……………	13
・楽しかった1年間	オオシロ アウカキ 大城 新垣 リチャード ジョイ ……………	16
・地球の反対側	カノ パトリシア ちえみ……………	18
・チャンスを楽しむ	チカノネ 仲宗根 カリーネ かおり……………	22

○アジア諸国等海外留学生（3名）

・沖縄でのニューデイ	リン 暁玖……………	25
・ニフェーデービル	リ 依璇……………	32
・沖縄の青空の下	ハン 瑋文……………	37

平成22年度 沖縄県海外留学生名簿

<p>まきし けい 恵 エリザベス</p>  <p>出身地：アメリカ合衆国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<p>かの パトリシア ちえみ</p>  <p>出身地：ブラジル連邦共和国 留学先：沖縄県立芸術大学 受講科目：琉球舞踊組踊等</p>
<p>クック マリコ ミッシェル</p>  <p>出身地：アメリカ合衆国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<p>なか そね 仲宗根 カリーネ かおり</p>  <p>出身地：ブラジル連邦共和国 留学先：沖縄県立芸術大学 受講科目：琉球舞踊組踊等</p>
<p>きしもと つかざん 岸本 津嘉山 ディアナ たかえ 高枝 デリア</p>  <p>出身地：ペルー共和国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<p>りん ぎょうまい 林 暁玫</p>  <p>出身地：中華人民共和国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>
<p>まえほかま ま 前外間 エリカ</p>  <p>出身地：アルゼンチン共和国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<p>り いせん 李 依璇</p>  <p>出身地：台湾 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>
<p>うちま やびく 内間 屋比久 マリエラ イネス</p>  <p>出身地：アルゼンチン共和国 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<p>はん いぶん 范 瑋文</p>  <p>出身地：台湾 留学先：琉球大学 受講科目：日本語・日本事情</p>
<p>おおき あらがき 大城 新垣 リチャード ジョイ</p>  <p>出身地：ペルー共和国 留学先：名桜大学 受講科目：日本語・日本事情</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海外移住者子弟留学生（8名） 琉球大学 5名 県立芸術大学 2名 名桜大学 1名 ●アジア諸国等海外留学生（3名） 琉球大学 3名 ●留学生出身地 5カ国1地域 (アメリカ、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、中国、台湾)

おきなわんドリーム

真喜志 恵 エリザベス (アメリカ合衆国)

Hello! My name is Kay 'Elizabeth' Makishiやいびーん。私の両親はウチナーンチュですが、私自身はアメリカで生まれ育ちました。今回留学に来る前には沖縄には一度も来たことはありませんでした。

沖縄に来て、授業で沖縄の歴史を学んだり、親戚の話を聞いたり、沖縄の人と接したりする



親戚の家でお盆行事

ことで、両親に対するありがたさと、自分が生まれるまでの家族の歩んできた道のりの大切さが感じられるようになりました。私の両親がアメリカに移民し、どのような苦労があったのかを知り、また親戚とのつながりとその人達の温かさを肌で感じる事が出来ました。この経験を通して、私自身のルーツやアイデンティティーについても、考えるようになりました。

沖縄に来てもう1年経とうとしていますが、この長いようで短い間に私の意識はずいぶん変わりました。琉大では世界各国からの留学生が勉強していますが、様々な文化を持った友達と接することで、世界は広くもあるし、小さくもあるのだと感じています。そしてより良い人間関係を築くためには、国の違いによらずコミュニケーションを取ることが必要だと感じています。そしてコミュニケーションというのは、言葉によるやりとりだけではなく、相手の気持ちや態度、行動や表情でも十分に心が通じるものだということにも気づきました。時には、笑顔だけでも気持ちが伝わります。一年という短い期間ですが、これからずっと長く付き合える良い友達を作ることができました。



親戚と友達と一緒に撮影した国立劇場での三線発表会

いろいろなことを学ぶ時、実際に自分が体験しないと分からないことも多くあると思います。



那覇ハーリーに参加

ですから留学し、世界を教室にする事がいい方法だと思います。沖縄は小さい島ですが、気候もいいし、自然も美しいし、世界から多くの人が訪れるし、暖かい心を持っているが大勢います。挨拶さえすれば沖縄の人は、すぐに相手を受け入れてくれると知りました。

実はアメリカにいる時も、三線や沖縄民謡を聞くのが趣味だったので、サークル活動や親戚の集まりを通して、より三線の技を磨くことが出来ました。更には今まで何気なく聞いていた民謡の歌詞を理解し、歌にかかれた場所へ行くことで、興味を深めることが出来ました。また、授業をきっかけに、沖縄の伝統的なぶくぶく茶の稽古に参加することができ、多くのイベントにも参加させて戴きました。

沖縄に来ることは私の夢の一つでした。これからも沖縄の文化、沖縄の歴史、家族や親戚のこと、日本語を一生懸命勉強し続けたいと思っています。そして、将来は大学院に進学し国際関係を専攻したいと考えています。そして社会と経済の発展につくす仕事に就き、沖縄とアメリカの架け橋になるように努めたいと考えています。

誰も未来の事は予想できません。しかし、一番大切な事は、まずは一步を踏み出し、全力をつくし、その結果から学び夢に近づくように前進していくことではないでしょうか。さあ、みなさん、一步を踏み出しましょう。



沖縄で初めて体験したぶくぶく茶



久米島でのホームステイと交流会



琉球大学のスピーチ大会

沖縄で過ごした一年

クック・マリコ・ミッシェル（アメリカ合衆国）

私が初めて県費留学制度のことを知って、「これって、本当?!奨学金をもらって沖縄で一年留学できるなんて、嘘でしょう?」と思っていました。でも、インディアナ沖縄県人会からもっと詳しい情報を聞いて「あっ、県費留学っていうのは本物なんだ!」と、その事実を認めました。それを知ってから、私は早速応募しました。英語と日本語で作文を書いたり、何十枚の手続きがあったり、電話のインタビューもしたり、日本国籍から離脱もしました。色々大変でしたけれども、現在の沖縄での生活を見ると、その苦勞から今までの経験で一番素晴らしいの生きてきました。



県費留学生になる前には、私はインディアナ大学の2年生で、東アジア言語と文化を勉強していました。子供の頃から日本文化や日本語が大好きで、大学に入ってからでも日本語の勉強を続けることに決意をしました。大学生になる前からどこかで留学したいと、ずっと思っていました。在学中の大学では、名古屋と京都にある大学と交換留学のプログラムがあり、どちらかの学校で留学しようかなあと、私は考えていました。ですが、留学のことを強く考えている時に県費留学制度のことを知り、絶対このほうがいいに違いないと思いました。

私は沖縄生まれなのですが、生まれて一年ほどで引っ越しました。そのため、子供の頃は家族と一緒に、沖縄にいる親戚と会うために何度も訪れました。子供の時から今まで、何回沖縄まで遊びに来たのか、数えられないくらいきているような気がします。小さい頃から、私はいつもおじいちゃんやおばあちゃんの会話を聞き、うちなーぐちまで少し覚えるようになりました。去年の4月に沖縄に来てから、私は「沖縄のなまり」が付いているのに気が付きました。以前は全くわからなかったのですが、今回沖縄に来て、先生や日本人の友達などからよく、こう言われます。



「マリコ。。本当にアメリカ人なの?うちなーんちゅみたいな話し方だよ!」

私の母が沖縄出身なので、結局私が小さい時から教わった日本語は沖縄風の日本語だったの



です。一年間沖縄で留学している間、私のなまりはもっと強くなったのかもしれないね。これまで数えられないくらい沖縄を訪れてきました。けれども、今回の留学のおかげで「私って、やっぱりうちなーんちゅなんだ」と、実感できました。

この一年間に間に、初体験もありました。例えば、沖縄で4月に行われるシーミーや、あちらこちらで開かれたお祭りです。普段は夏休みに来ているので、それ以外の行事やお祭りには参加したことがありません。2010年に沖縄で留学する機会ができて、特にラッキーだと思ったことは、成人祝いの写真を撮ることができたことです。そうなんです、私は去年の8月に成人になりました。成人式には出場しませんでした、写真が撮られただけでと

てもいい思い出になりました。アメリカにはこういう行事がないので、何年か前から20歳の時は是非日本に行きたいと思っていました。私はピンクの振袖と、黄色の琉装を着て写真を撮りました。振袖より琉装の方が似合っていると言われ、驚きました。「あい！マリコ、あんた琉装とっても似合っているよ。首里城の前でバイトもできるくらいさ！」と、言われたことも何度もあります。しかし、県費留学生はバイトが禁じられているので、首里城でのバイトは無理でした。親戚によく「うちなーんちゅと結婚しなさい！」と言われるので、それが本当にあることであれば、結婚式では絶対琉装が着たいです！

沖縄はもちろん最高です。でも、本土から離れているので、そこに行きたがるのは仕方が無いと思います。ですから、夏休みに入って、私は親戚と関西へ行ってきました。4日間の旅でちょっと短かったんですけど、沖縄では味わえないことが沢山あって、楽しかったです。沖縄本島から出たのは、それ以外にもあります。8月に、他の親戚と石垣島と西表島にも行きました。天気はあまりよくなかったのですが、残念なんです、離島に行く機会がやっとできてとっても嬉しかったです。本土もいいんですけど、私にとって、やっぱり沖縄が一番です。

琉球大学で様々な国から来た留学生達と出会い、その人達と一緒に日本語、日本や沖縄の文化を学んでき





ました。留学生だけではなく、先生方も日本人学生の友達も、みんなそれぞれが私の沖縄での生活に印象深く残っています。アメリカに帰ってからも、一生忘れられない一年になり、アメリカの友達にここで過ごした経験を是非伝えたいです。将来、私は日本語を活かして働きたいのですが、まだまだわかりません。ここで留学

している内に私の意見や考え方も一年前に比べるとかなり変わりました。県費留学生として沖縄で留学する機会が与えられて何よりも嬉しいです。このチャンスを与えてくださった方々に、心から感謝しています。



沖縄大好き!

沖縄の魔法と魅力

岸本 津嘉山 ディアナ 高枝 デリア (ペルー共和国)

まさか私が日本に来て、沖縄で生活することができるとは思っていませんでした。それだけでも幸せなことです。その留學生活がこんなにも最高だとは思っていませんでした。ペルー沖繩県人会からこの留學をのチャンスをいただいた瞬間が今でも昨日のこのように思い出されます。とても喜びました。信じられませんでした。私の夢がとうとう実現するんだ、と思いました。夢とは、日本で日本語を勉強することです。でも、このチャンスが、考えていた以上によかったことは、おじいちゃんとおばあちゃんのふるさとで日本語を勉強できたことです。これは自分が追っていた夢よりもっといい夢でした。もちろん、私の目的は日本語を勉強することですが、この留學は私にもっといいものをくれました。

琉球大学に到着した時はちょっと緊張していました。今からどんな生活が始まるのだろうと不安になりました。最初はやっぱりちょっと苦しかったです。私の日本語の能力は低かったから。でも、先生たちは忠告や手助けをして、いつも私を応援してくれました。日本語の授業は大変でしたけど、面白くて楽しいものでした。たくさんいろいろなことを習いましたし、クラスメートと友達になりましたし、いろいろな体験や見学ができました。本当にすごく大変でしたけど、一生懸命頑張って、やってきました。実は、私は今でも、まだべらべらと言えるほど上達してはいませんが、勉強できたことが、本当に今うれしいのです。たくさん日本語を習うことができたからです。また、琉大スピーチ大会はとても楽しかったです。最初はあまり参加したくなかったのですが、発表の内容について先生に相談して、何回も直して、毎日発音を練習しました。段々発表の日が近づくにつれ、コンテストの準備が面白くなってきました。賞は取れなかったけれども、一生懸命頑張ったので、満足しています。すごくいい経験だったと思います。



3組



沖縄・着物コンテスト



DPS・ぶくぶく茶



琉大スピーチ大会

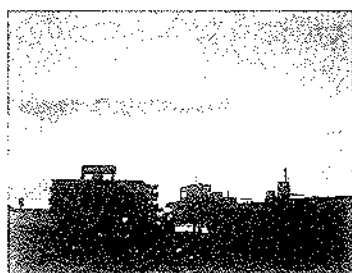
この留學で一番大切なことは日本語ですが、沖縄ではただ勉強しただけではありません。様々な活動もしました。琉大で三線のサークルに入りました。沖縄に来る一ヶ月前に始めて三線をひくことを学びました。大好きだったので、沖縄でも三線を続けたいと思い、サークルに入ったのです。そこで、新しい音楽を練習しました。また、「沖縄事情」の体験を通して、琉球の

茶道、ぶくぶく茶を習いました。茶道の田中先生はすごく優しいのでその日から今まで、先生の指導の下、ぶくぶく茶を練習しています。これも沖縄の伝統的なことですから、練習できて、とてもうれしいです。それから、「日本事情」の体験を通して、仲里先生は親切に着物の着付けを教えてくれて、沖縄で全日本きものコンテストに参加しました。楽しくていい経験でした。自分で着物を着ることができるようになったのはすごいいと思います。このようにいろいろな文化を体験しながら学べたことは、本当にうれしかったです。

沖縄滞在中に素晴らしい観光地へ見に行きました。沖縄の海に遊びに行ったり、面白い所を見学したり、素敵な風景を見に行きました。初めてシュノーケルもしました。信じられない気持ちでした。本当にすごかったです。お正月の時に、初めて初日の出を見に行き、初めて太陽が海から出るところを見ました。素敵でした。ペルーで太陽は山から出るので、沖縄のお正月でぜひやってみたくてでした。それから、初めて花見に行きました。友人と遊びに行き、素晴らしい景色を見ました。また、初めて月の入りを見ました。リマはいつも曇っているから、こんなチャンスがありません。でも、月の入りだけでなく、月の入りと同時に日の出も見えました。自然の驚異だと思います。すごく感動しました。



沖縄のちゅら海



廣大の北口



ボリビアのいとこ



花見

さらに、いろいろな人に会って、いっぱい友達を作りました。みんなは違う国籍を持っていますが、これは問題にはなりません。みんな楽しくいい時期を過ごしました。この友達の中で仲良しの友人もできました。これもこの沖縄県費留学の特権だと思います。友達は大切なものですから、心からとても喜んでます。南米の人のなかではアルゼンチンとブラジルとコロンビアの留学生と出会って、どこへもいつでもよく楽しみました。寮には日本人も住んでいます。みんな優しく、親切な人です。いろいろなことを手伝ってくれました。そして、みんな段々仲良くなるためにパーティーや飲み会などしました。最近紫陽花B1の人みんなでTシャツを作りました。みんなを忘れないために。そして、もっと大切な日本人の友達は私のチューターです。るかさんと言います。夏休みには一緒にふるさとの京都へ連れて行ってくれました。うちに泊めたり、家族に紹介したりしてくれました。みんなとても面白くて、親切な人です。るかさんは私のチューターになってから、もっと仲良くなって、一緒にいい思い出を作ったり、宿題を手伝ってくれたり、心の問題を話したりしました。ちゃんと私のことを手伝ってくれたり、心配してくれたり、応援してくれました。最後ですけど、もちろん、同じ県費留学生と仲良くなりました。とっても喜ばしいことです。一緒にいろいろな経験をし、同じ時を過ごしました。勉強、見学、問題、パーティーなどです。これから友情が始まります。



琉大の寮・紫陽花棟B1



3組の先生と



東京・チューターと



沖縄県費留学生

ペルーにいた時、母やおじさんに親戚のことを聞いてみました。ペルーで家系地図を作ってきましたけど不完全でした。津嘉山の親戚は多いし、いっぱい知らない親戚がいるので、沖縄に住んでいるおじさんに聞いてみると、想像もしなかったような大きさでした。たくさんの親戚に沖縄で初めて会いました。一緒にいい時期を過ごせたことを喜んでます。そんなに仲良くなれるとは思っていませんでした。そして、留学生を通してボリビアのいところにも始めて会いました。これもすごいと思います。ペルーの親戚に会うチャンスがあると思って、心の準備をして来ましたが、ボリビアの親戚に会うなんて全然考えていませんでした。信じられませんでした！本当にこれは沖縄の魔法と魅力だと思います。会ってからは、すぐに仲良しになりました。幸せでした。確かに、「イチャリバチョーデー」です。



初めて合った親戚



沖縄に住んでいる親戚



初日の出・2011年元旦

沖縄にいる間に私はもう一回自分自身を見つけ始めました。私は何者かをちゃんと考えて初めています。新しいことを学んだし、体験したし、いっぱいのことを理解したし、自分のアイデンティティーも変わったし、本気で沖縄滞在は私の人生のためにとっても重大なことでした。私の過去、私の現在、私の将来。沖縄に来ることは生活の中で主で、肝心な出来事です。今までいろいろなことを考えることができました。沖縄留学は、人生で大切に最高の思い出だと思います。

この一年間はすごく早く経過しました。ペルーに帰っても日本語の勉強、沖縄との関係、親戚や先生や友達と交流し親睦を続け、沖縄が見せてくれた新しい人生が続けられるように頑張りたいと思います。この県費留学、この沖縄にいるチャンスをくれた沖縄県に心からとっても感謝しています。

どうもありがとうございました。

イッペーニフェーデービル。

初めての沖縄

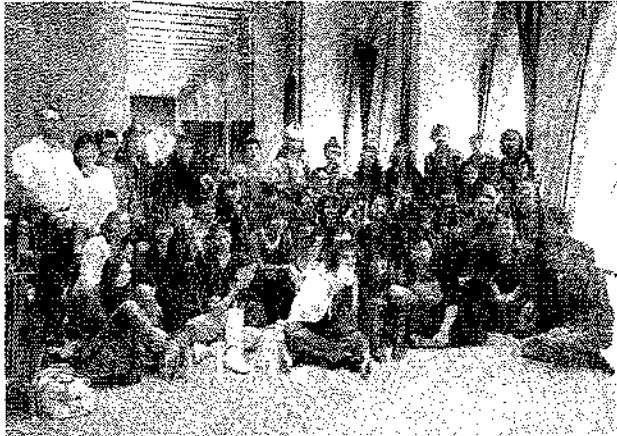
前外間 エリカ（アルゼンチン共和国）

私は初めて日本に来ました。当然、沖縄も初めてです。それに一人暮らしも始めてです。

私は沖縄の空港の出口で、私のおばあちゃんを見た時、大きい声で「おばあ！おばあ！」と言いました。私が5歳の時に、おばあちゃんはアルゼンチンに来ました。その後、一度も会ったことはないです。着いた時、おじさんやおばさん、従兄に初めて会いました。皆はとても優しくしてくれました。

私は日本に来た時は、あまり日本語を話せませんでした。琉球大学で初級の授業を受けました。先生やクラスメートと楽しく勉強しました。

寮の人たちや琉球大学生、他の留学生だけではなく、コンビニの人やバス停の人、道で知ら



ない人にもいつも親切にしてもらいました。

授業で、小学校に行きました。そして、アルゼンチンについて話しました。子供たちは興味を持って聞いてくれました。そして、質問もしてくれました。

国立劇場おきなわで組踊の見学をしました。組踊は去年、ユネスコ無形文化遺産になりました。

琉球大学の日本語スピーチ大会に参加しました。スピーチに向けて、先生と発音の練習をしました。私は発音の違いを本当に勉強しました。その経験はとても面白かったです。いつも先生に感謝しています。

琉球大学の色々なサークルに参加しました。三線のサークルでは、たくさんの曲を弾くことができました。そして、琉球大学の留学生まつりと日本語スピーチ大会に参加しました。ウチナーグチのサークルでは、ウチナーグチと琉球の歴史を勉強しました。本当にとても面白かったです。そして、おばあちゃんやお父さんと、ウチナーグチで少し話すことを出来ました。サルサのサークルやポルトガル語のサークルでは、留学生や日本人と一緒に学びました。そこでは、たくさんの友達が出来ました。





このサークルはとて面白い経験になりました。
皆さんありがとう!!!

私はたくさん日本語の勉強をしました。そして、沖縄の文化や歴史も勉強をしました。ある時は親戚と、ある時は友達と、そしてある時は一人で、色々な所で行って、歴史を勉強しました。

私はアルゼンチンでは、琉球國祭り太鼓アルゼンチン支部のメンバーですから、祭り太鼓沖縄本部で入る事が出来ました。世界のウチナーンチュ大会のプレイベントに参加しました。このプレイベントには海外支部を呼びました。そして、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、ブラジル、メキシコ、アメリカ、ハワイのメンバーに会いました。色々なイベントにも参加しました。とても楽しかったです。新しい曲も習いましたから、アルゼンチン支部で教えるつもりです。でも、練習では、エイサーを習うことだけではないです。日本人の生活も習いました。



琉球國祭り太鼓の皆さん、ありがとうございます。

ぶくぶく茶を学びました。アルゼンチンでも、この琉球の茶道を行いたいです。田中先生、心から感謝しています。



お父さんの方の親戚と初めて会いました。そして、色々な文化を体験しました。例えば、シーミー、お盆、初詣です。とても面白い勉強になりました。

お母さんの方の親戚とも初めて会いました。私のひいおばあちゃんに会うことができ、と





でもうれしかったです。またおじいちゃんの弟にも会いました。このように私は、たくさんの親戚と会い、沖縄の習慣を勉強することができました。私の親戚にいつも感謝しています。

平和祈念公園に行った時、私の名前を探しました。勝連の平安名の前外間と東新垣は、私の家族と親戚だけだと思います。それから、この名字を見付けた時、とてもびっくりしました。そのことをお父さんに電話で話しました。その名前はお父さんのおじいちゃんの従兄弟だと、お父さんは教えてくれました。たくさんの親戚がいるので、他に誰がいるのかあまりわかりません。もっと探したいです。

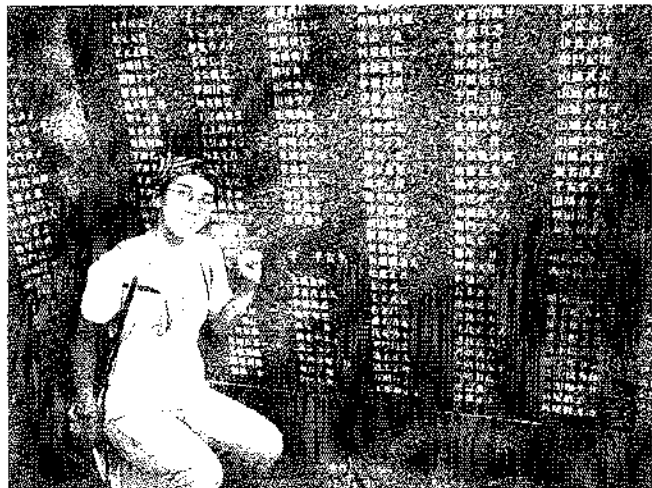
沖縄でボランティアをして、とても良かったです。沖縄の海外県人会ホームステイ派遣事業のプログラムで、アルゼンチンの文化やアルゼンチンの移民について話し、スペイン語を教えま



した。他にもJunior Studyというプログラムや琉球大学のスペイン語の授業、それにぶくぶく茶の会議を手伝いました。

沖縄で一人暮らしをして、いい経験になりました。沖縄はとても安全ですから、いつでもどこでも、心配なく外を歩くことができます。

沖縄に来る前に、私は色々な目標を持って来ました。日本語の勉強することや文化を学ぶこと、親戚と会うことなどです。でも、この県費留学生のプログラムをとおして、やりたいことはふえました。沖縄の生活はとても楽しいです。たくさんの日本人や留学生と友達になりました。イチャリバチョーデーの意味や、琉球の歴史と文化を習いました。戦争のことも勉強しました。一年で色々なことを経験



しました。梅雨、地震、台風、桜、きれいな海、青い空、アルゼンチンとは反対の四季、アルゼンチンは違う他の星座が見えることなど、アルゼンチンで経験出来ないことを沖縄でたくさん経験しました。

この一年間、県費琉学生のプログラムにとても、とても、心から感謝しています。

いつも、ありがとうございます！！



沖縄、イッペーニフェーデービル！

内間 屋比久 マリエラ イネス（アルゼンチン共和国）

数年前には、私が沖縄で一年間住むなんて夢にも思いませんでした。家族や友達と離れるのを怖がっていました。しかし、アルゼンチンで日本人や外国人と出会い、かれらからアルゼンチンから遠く離れた向こう側に何かがあるのを教えてもらいました。友達の話しをきっかけとして、沖縄に留学することを目差しました。「一年間沖縄に住んだら、観光客としてではなく、沖縄の住民みたいに沖縄のことを深く理解したい」というのが、私が沖縄に来る前の目標でした。今、約一年間沖縄に住み、その目標は大きすぎたのが分かりました。それでも、沖縄の文化や習慣を体験できたことは、沖縄のことをたくさん知るいい機会となりました。

海外にいるとき、言葉が分からなかったら困ることが多いかもしれませんが、親切な人と接すると、言語の障害が乗り越えられるということが、沖縄に来て分かったことの一つです。沖縄に来たばかりのころ、日本語がほとんど話せなかった私は、必死になって日本語を勉強し、琉球大学の先生方や友達のおかげで日常会話ができるようになりました。



また、プロジェクトワークと言う留学生の発表や琉球大学のスピーチ大会に出場し、良い経験になりました。プロジェクトワークはクラスメートと一緒に発表するので、いろんな国の人と意見や経験を交換できました。また、スピーチ大会は日本語が成長するのはもちろん、クラスメートとお互いに手伝ったり、応援しあったりしたのは私にとって、一番大事な思い出です。



その上、沖縄県主催の外国人による日本語弁論大会にも参加でき、とてもいい経験になりました。最初は、春休みに毎日スピーチの練習をすることにはあまりやる気が起こりませんでした。しかし、先生方が毎日夜遅くまでスピーチの原稿や発音の練習を手伝ってくださり、一緒に参加した留学生も応援してくれて、本当に選ばれて良かったと思います。また、当日に先生方、友達、琉大生、親戚がみんな応援しに来てくれて大変感動しました。



沖縄事情や日本事情の授業で沖縄や日本文化のことをいろいろ体験し、とても楽しかったです。また、一番印象に残ったのは沖縄戦の学習です。祖父母は戦争のことをほとんど語らなかったため、そのときの状況のことをあまり知りませんでした。その時、沖縄住民がどれほど苦勞したのかを知り、祖父母、また私のことをもっと知ることができました。

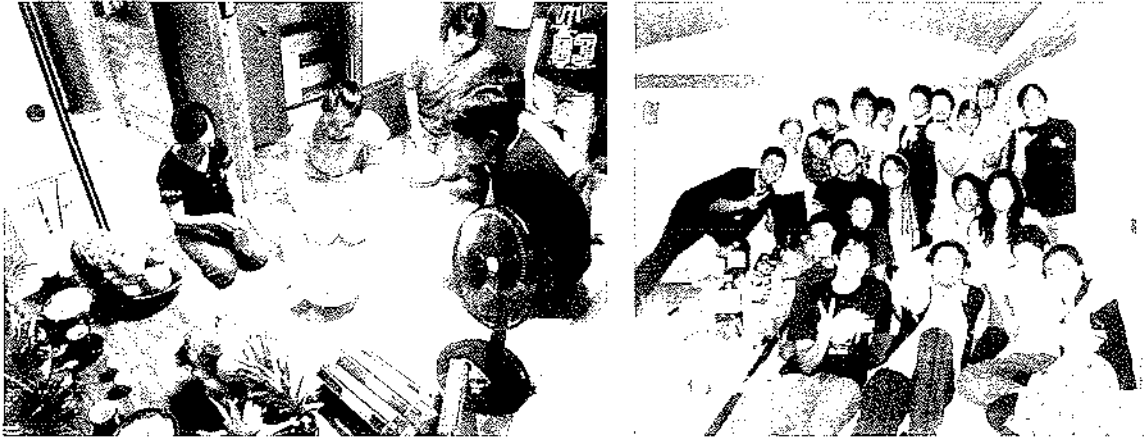
歴史だけでなく、沖縄事情の授業で琉球の茶道、ぶくぶく茶を体験し、田中先生のお茶の教室に通い始めました。いろいろなイベントに参加させていただき、大変勉強になりました。田中先生は茶道だけでなく、沖縄のいろいろな習慣を体験させてくださいました。私にとっての沖縄のおばあちゃんです。



沖縄のことをもっと理解するために、いろいろなサークルに参加しました。アルゼンチンで「琉球サブカイ」と言う若者の三線サークルに入り、一カ月やっていたので、沖縄でも三線を練習しました。また、太鼓も沖縄の伝統芸能の一つであり、前外間エリカさんと一緒に琉球國祭り太鼓の練習に行き始めました。沖縄の人と一緒に伝統文化を学んだのはとても面白い体験でした。帰国しても、必ず、活動を続けたいと思います。

日系人として、この留学は自分のルーツを探すための旅だと思っていました。人生で初めて会う親戚と出会い、感動しました。アルゼンチンからこんなに遠く離れた沖縄で、親戚と会い、いろいろな話しを聞き、シーミー、お盆やお正月を一緒に過ごせたことは、忘れられない思い出です。





ルーツを探すため、祖母のふるさと、沖永良部島にも行って見たかったです。それで、現在の沖永良部島をおばあちゃんに見せようと思い、夏休みに行きました。偶然出会ったやさしいおばさんが、私がルーツを探しに来たという話を聞いて、いろいろお世話をしてくれました。昔、祖母が住んでいたときの友達を探そうとしたときは、おばさん達が手伝ってくれ、若い頃の祖母の知り合い、山田おばあちゃんと会うことができ、大変感動しました。祖母が沖永良部島に行ける機会はないかもしれませんので、ずっと心に残る思い出になると思います。

一年間はあっという間に経ちましたが、沖縄で学んだこと、沖縄に出会った人、自分自身の成長は人生で忘れられないことです。これから、帰国したら、学んだことをぜひアルゼンチンの人や日系人に伝えたいと思います。また、沖縄で興味を持つようになったことを深く研究したいと思います。

お世話になった、沖縄県庁、沖縄県国際交流・人材育成財団、アルゼンチンの県人会の皆様、沖縄住民、琉球大学の先生方、ぶくぶく茶の田中先生、留学生、親戚や友達に、心から感謝しています！

ありがとうございました！ Muchas gracias!

楽しかった1年間

大城 ジョイ（ペルー共和国）

私は大城ジョイと申します、ペルーから参りました。

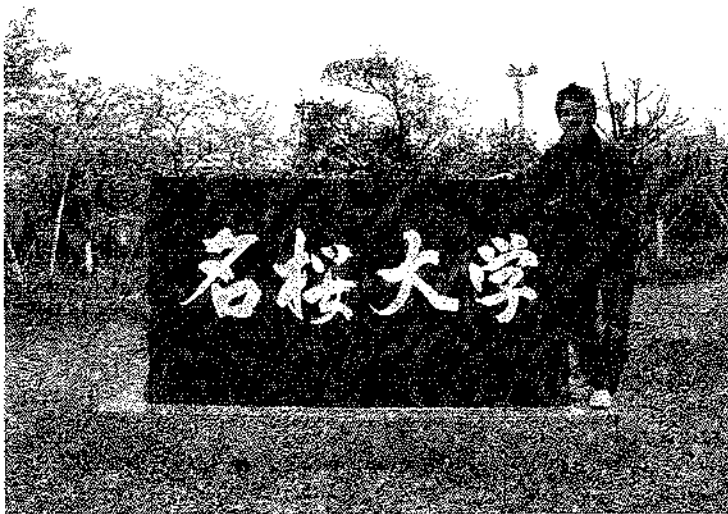
去年の4月に沖縄に来て名桜大学でけんぴ留学生として1年間日本語を学びました。

私は日本に来る前は日本語をあまりうまく話すことができませんでしたが、名桜大学で日本

語を学んでいくうちに最初に比べると日本語が上手になってきました。それから日本人の友達もたくさん作ることができました。今では日本人の友達とにちじょう会話ができるぐらいの力がつきました。

本当に1年間は早いですね。来た時に自分で「1年間長いですね」って思った。

ここは生活とかペルーと比べると違います、だから、来た時に自分でびっくりした。



来た時に私の親戚は空港で待ちました、私来る前に知らなかった。その、後で親戚の家で泊まりました。

次の日は一緒に買い物して名桜大学へ行きました、本当におじさんはとてもやさしい人です。私は日本語 1、2と3を取りました。

最初に私の日本語をあまりうまく話すことができませんでしたから先生は私にいつもお手伝いしました。だから、先生のこと忘れません。最初に日本語IIIの授業は本当にむずかしかったけどたかえす先生はやさしいから覚えやすい。

日本語IIIの授業も1回に自分の国の料理を作りました、

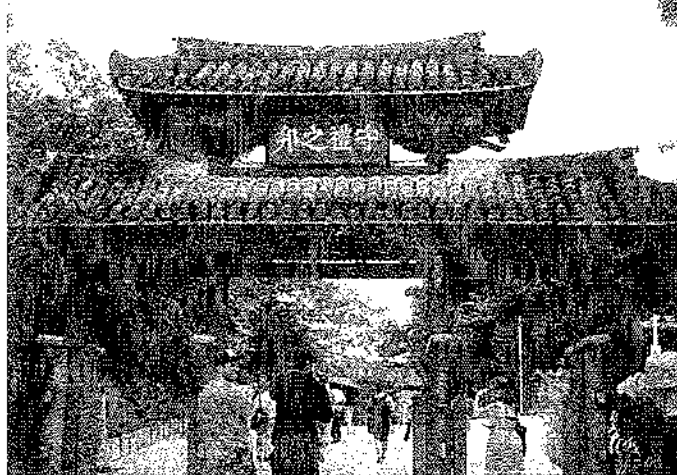
いろいろ料理を食べたことができました。私の専門はデザイングラフィクスから名桜大学でコンピュー



タビジュアルコミュニケーションとウェブデザインを取りました。

エイサーのサークルを入りましたけど3ヶ月だけやりました、でもとても楽しかった。エイサーは入った時に実はあまり話せませんでしたけどゆっくりを習いました。

夏の時に皆さんは休みから海へ行きました。本当にとってもきれいだった、着いた時に自分で考えました、多分世界で沖縄の海が一番いいと思います。だから、ペルーに帰ったら沖縄の海が見ることができなくなるので悲しくになります。



水族館へ行きました、とても大きいし、きれいで、たくさんの種類の魚を見ることができました。首里城にも行きました。

夏休みの時に東京へ行きました、あそこはお姉さんと一緒に会いました。

お姉さんの家で泊まりました。家族も居るから一緒に遊びました。

私は東京行った時に初めてからあまりしりませんでしたけど友達の手伝いました。友達は「できれば京都は本当

にきれい」ってけど時間から行けませんでしたが、でも、NIKKOって言う場所はきれいだった、お寺いっぱいもあります。

渋谷、秋葉原、新宿、千葉、川崎、お台場も行きました、とても面白かった。桜祭り参加しました、ペルー料理を作って売りました。私だけじゃなくて他のペルー人と一緒に売りました。人はいっぱい来ました、大変だった。有名な人も来ました、passionって言います。だから、とても楽しかった。

この1年間は本当に早かった。

私はとてもうれしい、友達いっぱい作りました。日本語もうまくなりました。

沖縄は本当に楽しかった、私はペルーに帰りますが、沖縄でけいけんしたことや皆様のごことはいっしょう忘れません。本当にありがとうございました。"Nos vemos pronto" また今度会いましょう。



地球の反対側。。

加野 パトリシア ちえみ (ブラジル連邦共和国)

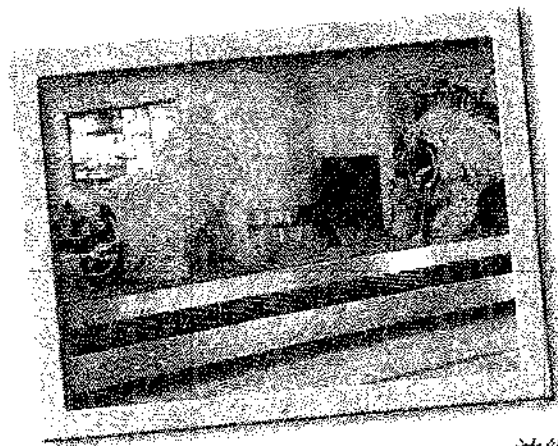
私は子供の頃ブラジルでいつも県人会の琉球舞踊の発表を見ていましたが、やりたいと思う気持ちはあまりありませんでした。しかし、11歳の時に友達に誘われて、初めて踊ることになりました。最初はVILA ALPINA 沖縄県人会で習い、難しかったけれども先生方が優しく教えてくれたので、だんだんと出来るようになりました。琉球舞踊のコンクールを受けるために知花千恵子先生の道場に通いました。ブラジルにいらっしゃる先生方のおかげで、私の琉球舞踊の腕前を上げることが出来ました。

琉球舞踊を初めてからもう13年が立ちました。この長い間、父と母はいつも支えてくれ、稽古場や県人会など遠いところでも連れて行ってくれたり、家族みんなが発表を見に来てくれたりしたので、もっともっと琉球舞踊をやりたいという気持ちが強くなりました。



ずっと一緒に～

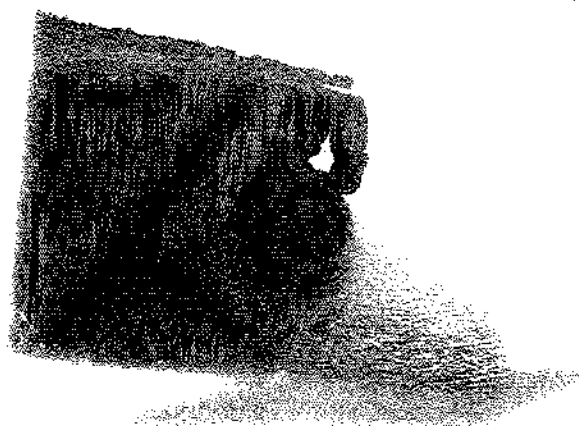
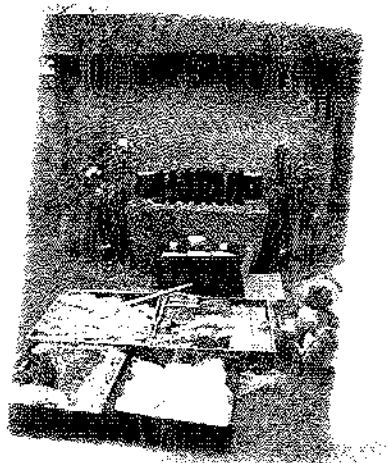
そして、たくさん練習してブラジルで琉球舞踊のコンクールの最高賞を取りました。その後もっと上達したいと思い、また母方の祖母が久米島出身ということもあって、沖縄に来ることが夢になりました。去年、沖縄県費留学生として沖縄に行けることになり、うれしかったです。



沖縄に！

最初は、今まで親がしてくれたことを自分でやったり、家族がいないと寂しくて難しいと思いましたが、友達ができたり、先生方や先輩方が優しくいつも助けてくれるので楽しい生活が送れました。その上、会ったことがなかった親戚と初めてに会え、みんなすごく優しく、私のことを心配してくれるので、沖縄方言にある『いちゃりばちよーでー』の意味を実際に感じることが出来ました。

親戚とは一緒に沖縄のシーミーという行事に参加したり、万座毛や久米島へ行ったりしました。



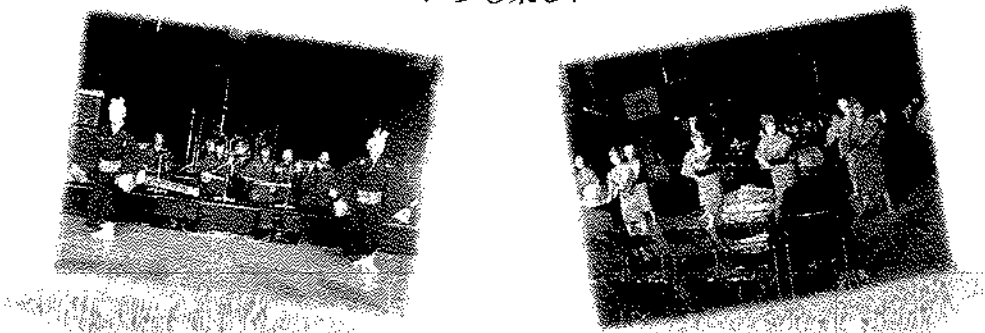
また友達や日本語の先生方やコーディネーターと一緒に沖縄の有名な所美ら海水族館や祭りやコンサートなどへ行ったりして、沖縄のすばらしさや楽しさを感じました。



今通っている沖縄県立芸術大学では、専門は琉球舞踊ですが、舞踊だけではなく、扮装法、太鼓、胡弓、笛、組踊り、三線、箏、詞章研究、空手、日本語などのたくさんの勉強が出来き、また先生方が優しく教えてくださったので本当に感謝しています。



いつも楽しい～



他にも国立劇場へ演奏を見に行ったり、学内演奏会の時の先輩方の姿を見たり、先輩方と一緒に練習したり、舞台に立ったりして、また美ら島総体のボランティアで着付けするのを手伝ったり、沖縄の習慣「水取り」と言うことに参加できたり、たいへんいい勉強になりました。



経験いっぱい・・・



芸大以外では、玉城琉小太郎会、高宮城文子先生の道場に通いお世話になりました。夢の一つであった琉球舞踊の教師免許を取るお願も出来ました。

沖縄での一年間は先生方や先輩方から色々なアドバイスがもらえ、成長が出来たので、私が習ったことを他の人にも教えたいと思い、先生になるという夢を前よりも自信を持って言えるようになりました。初めて地球の反対側の沖縄に来て、またおばあちゃんのふるさとであるここでこんなにたくさんの勉強が出来たのは、思っていた以上に何にも比べられないほど人生の豊かな経験になりました。

私を支えてくれる家族をはじめ、沖縄県人会ブラジル支部の方々、沖縄県の方々、芸大の事務局の方々、ブラジルと沖縄の先生方や先輩方や友達など、応援してくれるみなさんへ本当の気持ちは言葉で言い表せないけれども、本当に心いっぱい感謝しています！

この一年間留学ができてすごい年になりました！

沖縄へありがとうございます！！

加野パトリアちえみ

t(-)y.

チャンスを楽しむ

仲宗根 カリーネ かおり (ブラジル連邦共和国)

まず、初めに沖縄に来ることができて、うれしいです。このような機会はめったにないので、支持して下さった皆さんに感謝しております。

私は2年前、ブラジルの琉舞の先生たちと友達と舞踊のために、沖縄に来ました。一か月でたくさんのいい思い出を作り、「また来たい」と思いました。あの時、初めて、沖縄の親せきたちと会って、温かい歓迎を受けて、びっくりしましたが、とてもうれしかったです。でも、日本語が話せなかったのが、沖縄の人々との話はあまりできなくて、残念でした。

去年の4月から、沖縄県立芸術大学で色々な琉球のことを学びました。練習した楽器は：三線、箏、笛、胡弓と太鼓です。私の専門は舞踊なので、舞踊、組踊、扮装法と詞障研究の授業も受けました。留学生は日本語の授業も受けられます。入学後、芸大でバレーボール大会がありました。ふおこで、初めて、琉芸能の生徒たちの授業外の様子を見て、みんな楽しそうに、元気に試合をしていました。



7月には初めて学生による演奏会を見ました。皆の力を合わせなければなりませんから、先輩たちは一生懸命がんばり、先生たちは指導してくださり、私たち後輩たちもがんばらないといけないと思いました。学内演奏会は本当によかったです。同じ7月には舞踊と組踊と三線の試験がありました。初めて実技の試験をやったので、とても緊張しました。また美ら島総体で高校生の着付けを手伝いました。いい経験でした。

沖縄市で初めて芸大生として舞台上で踊りました。ブラジルで発表をするよりもっと緊張しました。化粧と着付けは先輩たちがやってくれて、助かりました。その後、三日間美術の先生に紙すきを教えていただいて、勉強になりました。夏休みの前には11月に行われた芸大祭の練習



が始まりました。本番は体育館でやり、日本語の先生たちが見に来てくれて、うれしかったです。芸大祭の3週間後、舞踊の一年生の最初の学内演奏会がありました。そこで「かぎやで風」と先輩たちと「つらね」を踊りました。裏の準備はほとんど学生たちがやりました。ひなだんを運んだり、カーベットをしいたり、大変そうでした。みんながんばっていたので、感心しました。

芸大では他の発表も見られます。たとえば、オープンキャンパスや定期公演会などです。全部を見ることができませんでしたが、いつも見た時は感動しました。特に修士演奏会、大学院生の先輩たちの努力と才能、そして、芸に対する熱い思いを感じました。

打ち上げのふいんきはいつもの勉強している様子と違うので、おもしろくて楽しいです。

私が沖縄に来た時、親せきたちが空港に迎えに来てくれました。私は親せきとブラジルで話したことはありませんでしたが、皆は私の到着をよろこんでくれました。そのようにしてもらえると思っていなかったのが、うれしかったです。



沖縄の有名な所も見に行きました。美ら海水族館、平和記念公園、万座ものぞうの鼻、しきな園、首里城などです。沖縄は特別な習慣があるので、それも親せきにおしえてもらいました。

たとえば、シーミーやお盆の意味とやり方です。お盆の時におじさんの家に二泊とまり、お世話になりました。沖縄の親せきたちは今まで色々なイベントにも連れて行ってくれました。コンサートや運動会や祭も一緒に行きました。親せきたちの話は色々勉強になりますので、とてもおもしろいです。親せきたちは色々私のためにやってくれていたことに感謝しています。



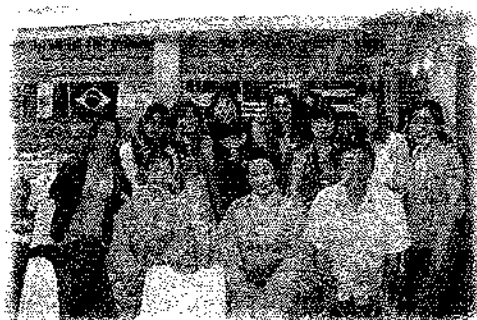
夏休みに松島小学校で一周間小学生と交流をしました。ブラジルのことを教えたり、一緒に授業を受けたり、休憩時間に遊んだりしました。ブラジルでは体験したことがなかった給食や掃除も一緒にやりました。最後の日にブラジルのお菓子を作りました。小学生たちがよろこんでくれて、うれしかったです。



沖縄で留学生生活を始めて、ラッキーなことに気付きました：留学するということは留学先との交流をするだけでなく、世界中の多国との交流することもできます。沖縄に色々な国から、

留学または仕事をしている人が多いからです。その人たちと知り合ってから、私の視野が広がり、今は他の意見を前よりも聞くことができます。そのため、友だちもが増えました。ここに来た時に会った人たちは：ブラジル、ペルー、アルゼンチン、アメリカ、台湾と中国の今年の県費留学生のメンバーでした。前の県費留学生は色々なことを助けてくれました。バスやモノレールの乗り方を教えてくれたり、いい所を紹介してくれたり、パーティーや発表会にも誘ってくれました。

留学することは私が思っていたよりも、勉強になりました。初めての一人暮らしを体験し、おじいちゃんおばあちゃんのふるさとを知り、自国との文化や習慣の違いを感じ、そして自分自身を知ることができました。今自分の考え方、相手の意見や気持ちを尊重するようになり、成長できたと思います。今この時にこんなたくさんの方のことを学べて、本当に良かったです。



今年は残念ながら県費留学生来ませんが、来年から続けていってほしいです。沖縄には広い文化があるので、それを世界中に伝えたら、特に移民した人たちは懐かしいと思い、またとても喜ぶと思います。

帰国したら、琉球舞踊を続けながら、大学へ行くための勉強をしていきたいです。そして、大学を卒業したら日本語をいかせる会社で働きたいです。そして、お金を貯めて、色々と違う文化や習慣がある国へ行きたいと思います。そして、そこで経験で視野を広げ、今よりもさらに成長していきたいです。

沖縄のみなさん、心から、ありがとうございました。



沖縄でのニューデイ

林 曉玫（中華人民共和国）

初めに

私は2000年7月、中国・福建師範大学外国語学院日本語科に入って日本語を勉強し始めた。大学での四年間の勉強を通し、日本語や日本文化などの知識を身につけた。2004年、日本語をさらに向上させるため、大学院の試験を受け、日本語の勉強を続けた。2007年7月、修士課程を修了し、卒業した。

私は日本語を勉強してから、日本への留学に憧れていた。卒業後、日本語学科の教師として、?田学院外国語学部就職した。?田学院外国語学部では、一年生、二年生の「基礎日本語」、三年生の「日中・中日翻訳」と「日本の言語と文化」、四年生の「日中・中日翻訳」及び「現代日本語語彙学」のコースを担当していた。また、仕事の余暇に日本の小説などを中国語に翻訳することや日中両国の語彙の比較なども行っている。このようなことを行うにあたって、日本語力全般を高めることが必要であるのはいうまでもなく、特に、翻訳においては、中国語と日本語の比較、日本事情、日本の風俗習慣にも通じていなければならないことを痛感している。日本で日本の風俗などを学ぶことはずっと中国人としての私の願いである。

日本と中国は「一衣帯水」とよく言われている。特に、沖縄県と福建省は昔から深く繋がりがああり、姉妹関係も結んでいる。そのおかげで、私は県費留学生として沖縄に留学することができたのである。

空港から学校までの間に目にした、沖縄の青い空ときれいな海、また空港まで迎えていらっしやった財団と県庁の方々の笑顔は私の心に強く印象が残った。

それから、あっという間に、沖縄での一年間の留學生活がおしまいになり、「さようなら」を言う時期になってしまう。

ここで、県費留学生として沖縄での留學生活を日本語の勉学、歴史や文化の満喫、イチャリパチョーデー（県民との交流）と三つに分けてまとめ、報告したいと思う。

一、勉学

琉球大学で日本語を中心に講義を受けた。前期は日本語ⅢA、日本語ⅢB、日本語ⅢC、日本語Ⅴ、沖縄事情Ⅰ、日本事情Ⅰといった六つのコースを受けた。後期は日本語コースを続ける一方、法文学部の日本語演習と日本語教授法の講義も受けた。

大学に入って、日本語を勉強し始め、今年で10年目になる。この貴重な1年間のニュースや読解の授業を通し、聴解や読解はもちろん、文法力及び似た言葉・擬声語・擬態語などもうまく使い分けられるようになった。また、漢字圏出身の私にとって、少し恥ずかしいのだが、漢字をより一層しっかり書けるようになった。そして、沖縄事情の授業を通し、沖縄の歴史や文

化を接し、分かるようになった。さらに、毎回のクイズやテスト、発表などを通し、日本語の聞く力、書く力、会話力が前より上達したような気がした。

後期は自分の国ー中国での仕事である日本語の教師としての私は、仕事のために法文学部の日本語演習と日本語教授法という講義を受講した。日本語演習の授業を通し、日本語の細かいところや日本語と外国語の違うところをさらに分かるようになった。日本語教授法の授業で、将来日本語の教師を志望している日本人の学生と一緒に授業を受けた。グループの討論や日本人の学生とのコミュニケーションによって、授業のやり方と会話力、及び教材の作り方も身につけられ、大変勉強になり、よかったと思う。

なお、日本語コースのほか、前期は私たちのクラス全員で中国の「杜子春」という昔話をアレンジし、劇にして大学の会館で発表した。先生方のご指導のもとに、皆それぞれの役を担当し、協力し合い、一生懸命練習した。そのため、劇は大成功だった。またお互い更に仲良くなり、貴重な思い出になった。



2010/07/16日本劇『杜子春』 みんな最高だぞ！

後期は日本語スピーチ大会のために、テーマから、文章の作成や発音の練習、ジェスチャーまでたくさんの時間をかけ、いろいろ工夫した。ここに、ずっと指導して下さった先生方に感謝している。



2011/01/28スピーチ大会

二、歴史や文化の満喫

沖縄に来る前、沖縄のことをほとんど知らなかった。沖縄に来て、学校の日本事情と沖縄事情の授業や、日本人の友達の話などを通し、日本、特に沖縄の歴史や文化をたくさん勉強してきた。

★歴史・埋蔵文化センター・中村城跡・首里城・浦添城址ようどれ★



2010/05/19歴史

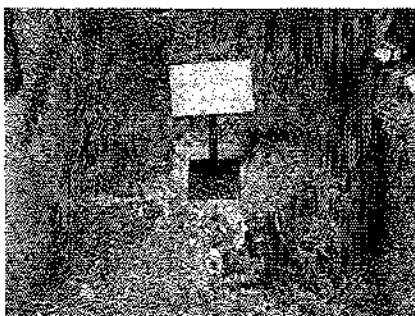


2010/12/01首里城見学

授業で最初に接するのは沖縄の歴史である。実際には、歴史と言うより歴史の文化財産と言ったほうがよいかもしれない。見学の初めは沖縄市戦後文化資料展示室—ヒストリートである。そして埋蔵文化財センター、壺屋焼物博物館、中城城跡などである。最後に行ったのは首里城と浦添城址ようどれである。見学を通し、沖縄の歴史に触れ、昔の沖縄人の生活を見ることができた。

★中村家住宅と福州園★

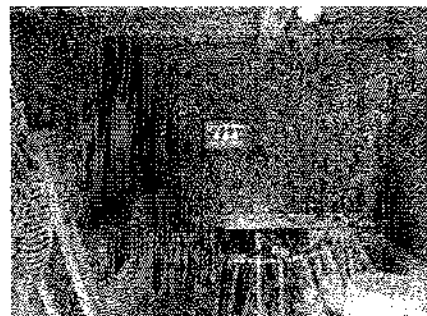
沖縄事情の授業のおかげで、中村家を見学に行った。これは沖縄で最も古く伝統な建築物である。住宅の外観や構造などが中国の影響を強く受けていた。そして、一番座、二番座、三番座の部屋の配置は昔の沖縄の男尊女卑の根本が覗かれていると考える。



豚小屋



2010/07/07中村家住宅

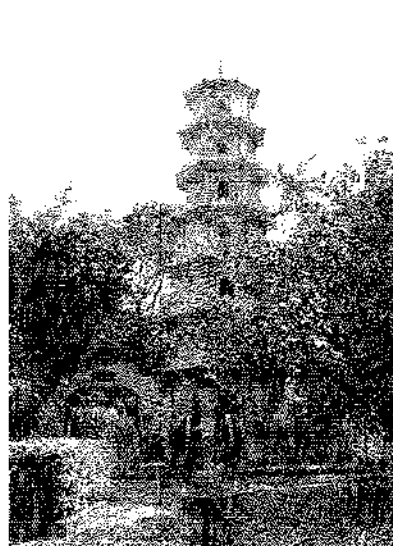


馬小屋

福州園は沖縄県と福建省が友好姉妹都市になった六十周年記念をするために、造られたそう
だ。福州園にはたくさんの木や花などが福建省の福州市から運ばれてきたそうだが、建物や彫
塑なども全部福建省からやってきた技術者たちが腕によりをかけて仕上げたそうだ。そのため、
中にふるさとの雰囲気満ちているので、入ると、懐かしいふるさとのことを思い出した。

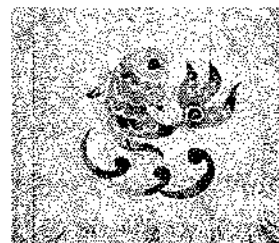


2010/12/23那覇福州園



福州園の保聖塔

★紅型作り・シーサー作り・組踊り観賞・壺屋焼博物館★



「紅型」は琉球王国の伝統的な染物で、沖縄の自然豊かな色彩を表現するように鮮やかで美しい琉球独特の染め技法である。中国渡来の最上の織物を生地として染められ、その木綿地は上質の細糸から織られた。自然の草花や鳥、魚などをモチーフにカラフルにデザインされている。私はシーサーと魚の模様の紅型にチャレンジした。大成功だった。自分で一つ一つ丁寧に手染めされた紅型は、琉球文様のデザインで、コースターとしてお洒落な作品である。とてもすばらしい思い出になった。

組踊は、歌三線(音楽)、唱え(せりふ)、踊り(舞踊)で構成された歌舞劇。玉城朝薫(たまぐすくちょうくん)により創始。1719年、琉球王府時代、中国からの使者を歓迎する宴での席で初めて上演された。玉城朝薫は能・歌舞伎・狂言などにも精通していたため、それらを参考にし、沖縄の史実や故事・説話を基にして、伝統的な沖縄の言葉、舞踊、琉歌と三味線音楽をとり入

れ組踊を生み出した。1972年の沖縄本土復帰にともない、国指定重要無形文化財に指定され、2010年世界無形文化遺産ユネスコに登録された。本当に喜ばしいことである。

国立劇場沖縄で二童敵討という組踊を觀賞し、沖縄の伝統的な文化をより一層深く理解することができ、沖縄の人々が伝統的な文化を大切にしている気持ちも分かるようになってきた。

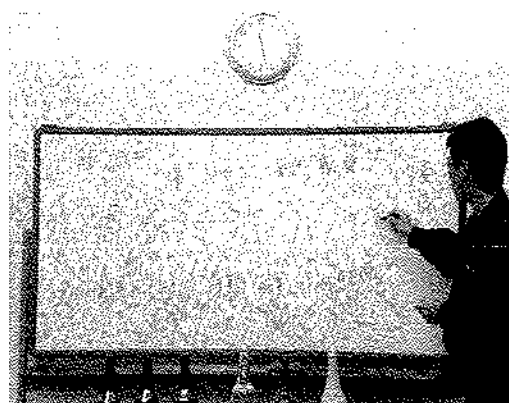


2010/11/18国立劇場おきなわ 2010年世界無形文化遺産ユネスコに登録され おめでとう！

★石川泡盛酒造・オリオンビール工場・ぶくぶく茶★

泡盛は、焼酎の一種である。主にタイ米を原料として、黒麹菌を用いた米麴である黒麹によって発酵させたもろみを蒸留した蒸留酒で、沖縄県の特産品である。石川酒造は県内では唯一、昔ながらの甕仕込み製法を採用し、甕を使い、職人の技術と手間隙をかけて仕込みを行っている工場である。

工場見学に行った時、屋良さんという方が、泡盛の原料から仕込み、蒸留、貯蔵、製品化まで詳しく紹介して下さった。その中で、甕仕込みとコースの仕次ぎは心の中に印象深く残っている。また、甕仕込みの際、工場の人が365日休まずに仕事することに感心した。



2011/01/31コースの仕次ぎ



2011/01/29
オリオンビール工場見学

泡盛の工場だけでなく、オリオンビールの工場や那覇の第一牧志公設市場などを見学に行った。また、沖縄の伝統的なぶくぶく茶も体験した。見学を通し、日中両国の食文化の相違点が見られ、日本、特に沖縄の食文化についてさらに理解することができた。

★アブチラガマ・平和祈念公園・サトウキビ畑の唄★

琉球大学もしくは沖縄の学校では、毎年六月二十三日の慰霊の日に向け、定番の授業と言われる平和学習が行われる。

この一ヶ月間、平和学習のため、沖縄戦についての教科書問題やガマなど、いろいろなことを勉強した。私はアブチラガマについてたくさんの資料を調べ、発表した。また、アブチラガマに実際に入ったり、平和祈念公園と平和祈念資料館を見学に行ったりして、戦争当時の出来事は、言葉で表現できないほど悲惨で、実際には文字化した戦争の記録の何倍もの苦痛・苦悶・恐怖に満ちたものであったのではないかと思う。それに、慰霊の日には、沖縄戦の悲劇といったものをとりあげた作品である「さとうきび畑の唄」という映画を見て、戦争の残酷な事実、胸を打たれた。それだけに、あまり戦争を知らない人がこの映画を見ると、強烈な印象を受けていた。悲しく、非人道的でこの世の地獄を見た思いを感じさせてくれ、何度も泣いた。「現在に生きるという幸せ」は戦没者とそのご遺族の努力のおかげで、戦争の辛さが伝えられており、家族と一緒にいられるだけで幸せなんだと改めて考えさせられた。普通の生活をするということがいかに難しいか、いかに平和が大切かと言うことを改めて痛感した。

「戦争をおこすのは たしかに 人間です しかし それ以上に戦争を許さない努力のできるのも 私たち 人間では ないでしょうか」 (平和祈念資料館展示の結びのことばの1節を引用した。)

★イチャリバチョーデー (県民との交流) ★

沖縄に来たばかり、友達で紹介で初めて沖縄出身の友達を作った。その友達のおかげで、首里城赤田町のミルク会に参加した。クラブのメンバーは、小学一年生から七十歳の年輩の方までと、年齢層は幅広い。月に一回ぐらい、クラブの方と一緒にお茶を飲んだり、中国語を勉強したりして交流した。そうすると、お互いに中国のことと、沖縄や日本のことを話し合い、楽しい雰囲気の中でお互いの理解を深めていった。



2010/05/16赤田クラブ中国茶を楽しむ会

クラブの方に誘われ、十一月の沖縄首里城祭りに参加した。私はクラブの小・中学生と一緒にミルクの行列で太鼓を叩いた。週に二回練習して、いよいよ十一月二日の本番の日を迎えた。皆さんと一緒に楽しみながら行事に参加した。本当に楽しく、私にとって大切な思い出になった。皆さん、ありがとう！



2010/11/02首里城まつり 赤田クラブミルク行列

県費留学生として、移民の日のパーティーにも参加した。そこでアジア諸国などへ移住した日系人達とお互い話し合った。そのおかげで、沖縄の移民文化やその歴史を理解できてきた。

終わりに

留学の一年間というのは、指先をすき通る風のようなものである。

今回の留学を通じて、まず自分の日本語の会話能力、ヒヤリング、読解力をさらに向上させた。そしてたくさんの友達を作った。さらに中国と日本の文化の比較しながら、日本の社会と日本の国民性をより一層理解することができた。そのほか、直接リアルタイムで現地で生の日本語を勉強したり応用したり、必要な資料を調べたりすることと、琉球大学の日本語の科目を受講すること及び、先生方の講義のやり方を参考にすることができて本当にありがたいと思う。

留学終了後帰国し、私は日本で学んだ知識とその貴重な体験を生かし、研究と講義を両立し、日本で学んだ知識をより多くの生徒たちに教え、日本の事情、特に沖縄の事情を生徒たちに紹介し、中国における日本語教育の発展と中日両国の友好のために微力ながら努力していきたいと思う。

最後に、この一年間の留学生活で、大変お世話になった先生方、沖縄県庁、国際交流・人材育成財団、日本人の方々に心から感謝の気持ちを申し上げたいと思う。



ニフェーデービル

李 依璇（台湾）

はじめ

私は地理学を専攻して、大学院に進学しました。日本語は大学院で第三外国語として勉強し始めました。第三外国語ができれば、就職に役に立つと思っていました。卒業後、大学の言語センターに勤めていました。国際交流の仕事のため、外国からの留学生を接して、彼らの様子を見て、自分も留学したいと考えました。留学によって、自分の語学力や国際社会への理解度を培って、自分の人生にプラスになると思います。偶々、沖縄県費留学生応募の知らせを台湾の教育部のサイトで見ました。これはいいチャンス、自分の新たな人生のページを開きたいと思って、申し込みました。その後、やっと試験を合格して沖縄に一年留学するようになりました。

矢のごとき、沖縄での一年はあっという間に過ぎたような感じがします。ここに、まとめとして1年間の留學生活の感想を書いていきたいと思っています。

● 沖縄の生活

私は最初、すぐにホームシックになるかと思っていたのですが、沖縄の人々のフレンドリーさや優しさに助けられて、楽しい毎日を送っています。

学生寮では日本本土、沖縄の大学生に出会いました。皆さんは気さくに話し掛けてくれて、とても親切です。特にある学生は台湾について興味を持って、台湾のドラマとても詳しく知っています。中には中国語が少し話せる人もいます。寮でウェルカムパーティー、食事会など行いまして、皆仲良くなりました。

沖縄に来たばかりの頃はあらゆることに珍し、毎日が新鮮な発見の連続でした。特に驚いたことはウチナータイム、私のイメージの日本とは全く違うので、大変なこともありました。そして当初は何もかも台湾と比べて見えていました。「台湾」を基準にものを考えてしまっていたため、習慣の違いに困ることもありました。

しかし留學生活2ヶ月目ぐらいから、「沖縄」の目線でも、ものを考えられるようになってきて、様々なことを受け入れられるようになりました。もちろん「台湾」と完全に比較しなくなったわけではありませんが、しっかりと自覚できるほど考え方が変わりました。生活に慣れてきたからこそ、理解できるようになったのだと強く思っています。

1年間がこんなにも短く、楽しく感じられたのは、沖縄に住む人の「親しみやすさ」が1番の理由であると思っています。例えば、沖縄ではスーパーと八百屋がありますが、1度買い物をしたり話をしたりすると、店の人とすぐに仲良くなることができました。店を通りかかる時に、声をかけてくれるということが多くありました。また、街中やバスの中などで偶然に会った人、

隣の席に座った人とすぐに仲良くなるということも多くにありました。本当に短い時間なのですが、不思議と知り合いのように話をし、笑うことができます。

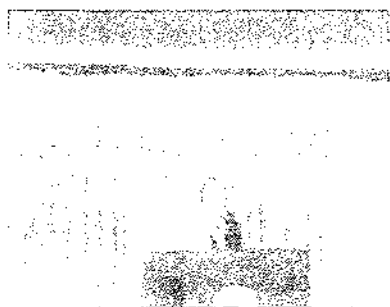
私はこのように、人と人との小さな繋がりがある沖縄の社会で素晴らしい文化だと感じています。私自身も、1年間この様な環境の中で生活したことで、自然と初対面の人とすぐに打ち解けることが出来るようになりました。

● 日本語の勉強

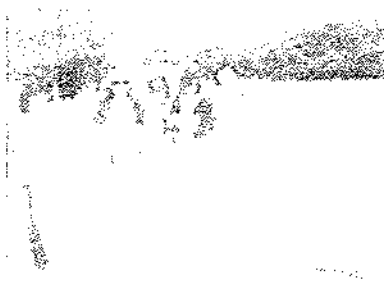
月曜日から金曜日の朝から午後まで日本語の授業があります。私の学ぶ二組は日本語の中級レベル者が集うクラスで、お国も年齢もさまざまです。台湾・ドイツ・中国・フランス・ブラジルの5か国、通常13人で授業が進められます。最初の頃は、先生の話すことの5割が聴き取れず、皆がバラバラのページを開いていたり、まったく違うページを読んでしまうこともあったのです。今では皆漢字を書き、べらべらの日本語で先生に質問をし、長い作文を書くようにまでなったから、すごく驚きました。特に、漢字のない国の学生が、書き順はめちゃくちゃでも、しっかりと紙に漢字を書きつけていくその姿には、感動すら覚えます。私はこの授業で、クラスの皆の日本語が上達したことを実感しました。

とても心に残る授業がありました。それは今学期最後の授業だったのですが、授業中、自分の国の様々な社会問題について、先生を含め皆で話し合うことになりました。先生と生徒が、自分の国で起きている差別、高齢者、子ども、就職などに関する社会問題を話して、それに対して「自分の国にも同じ問題がある」、「その点は自分の国と違う」などと皆で自由に発言しました。実際にその国で生活してきた人々の話が聞くことも、大変貴重な経験となりました。

また後期の日本語スピーチ大会、毎日そのスピーチの練習に取り組みました。速度や発音、顔の表情や身体の動作など全てが表現の一部なので、慣れるまでに苦勞しました。人の前で何か発表することに慣れていないから、すごく緊張して、不自然な動作や表情になってしまいました。しかし、毎日練習しているうちに暗記することが出来たため、本番の時に自分なりに自然な表現することが出来るようになりました。



スピーチ大会



見学



寮の友たち

◎ 沖縄満喫の体験

1. 平和学習

平和学習にいろいろな学習をしましたが、授業に沖縄の問題について資料を調べて、学校で

も関連のビデオを見ましたから、沖縄の問題に多少分かりました。しかし、実際に地元の人々から話を聞いたり、ガマや記念館など色々なところに見学に行きましたと、本当に衝撃を受けました。平和学習は思ったより悲しく暗いものです。

ガマ体験で怖くて不安になる真っ暗、何も見えない、何も聞こえない中で私は何も考えできません。資料館で戦争体験した人からの話は現実とは思えない悲しいです。そして私にとって一番衝撃的なものは、佐喜真美術館で見た「沖縄戦の図」です。目に入ったの血の色に染めた海です。人々がお互いに殺しす場面に恐ろしく感じました。戦争の残酷さを実感させられました。美術館の隣に普天間基地があります。美術館の屋上に行った時、ヘリコプターや飛行機の音が非常にうるさかったです。それは沖縄の基地問題です。

普段のニュースでもよく聞き取られていたから、戦争が終わってまだ続いている「沖縄」の問題でという認識がありました。実際に沖縄に感じたのが、基地との距離が近すぎるということです。普通に生活していて、基地が目に入るのはおかしいと思っていました。「沖縄基地問題」を「日本基地問題」だと言っていた人がいたが、本当にその通りだと思いました。沖縄は基地の負担しすぎています。米軍の飛行機の音がよく学校の空から聞こえます。米軍の飛行機を見ると戦争を体験した人たちにとってはつらい過去を呼び覚まされてしまうのではないかと思います。早く基地問題を解決してほしいと願っています。

平和学習で今まで知らなかった戦争のことや、その残酷さ、沖縄の人土地の思いをたくさん勉強しました。本当に良かったです。戦争を知らなかった自分はどんなに幸せなと思いました。平和について考えることが出来ました。これからも、今も戦争で傷ついている人がいることや戦争の恐ろしさを忘れずに生きていきたいです。そして戦争の恐ろしさを知らない人たちのために伝えていきます。



沖縄市戦後文化資料展示室



平和記念資料館



佐喜真美術館

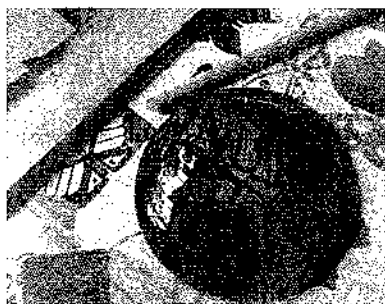
2. 文化体験—シーサー、紅型、ミンサー、塩、漆器、ガラス、組踊、那覇祭り、首里祭りなど

今までさまざまな沖縄のイベントや文化を貴重な体験をしてきました。例えば、首里祭りや琉球王朝の歴史をもとに国王・王妃行列、冊封使行列に、鮮やかな演出を見ました。那覇祭りで、太鼓が鳴り響きながら、皆と一緒に世界一の綱を引きました。国際通りで力強い太鼓の音を響かせて、一万人のエイサー踊り隊の姿をを体感しました。

一番印象に残っているのは、世界無形文化遺産に登録された直後に初めて組踊り「二童敵討」を観たことです。普段見る機会のない伝統芸能はとっつきにくく退屈かと思っていたのですが、

印象が変わりました。組踊は想像力で観るから、ただ舞台を観るだけではなく自分自身も本当にその場所にいるような感覚が大事ということを知りました。「二童敵討」では母と二童の別れのシーンはとても哀しく、おまおへと二童の敵討ちのシーンは音楽と役者がピッタリと合わさって、とても臨場感があります。

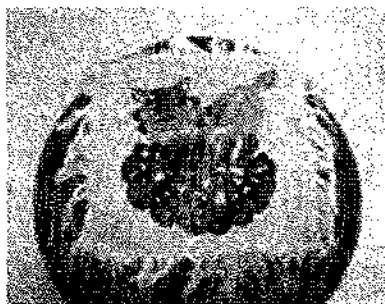
今後もチャンスがあれば体験した沖縄文化を、その楽しさを人々に伝え、沖縄県民の誇りに繋げていきたいです。



漆器



ぶくぶく茶



紅型



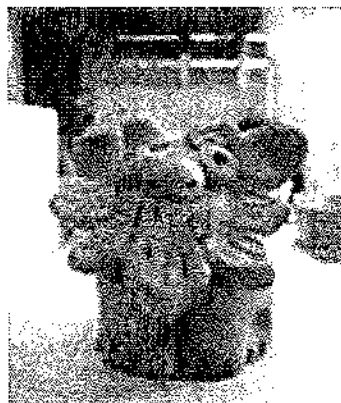
首里祭り



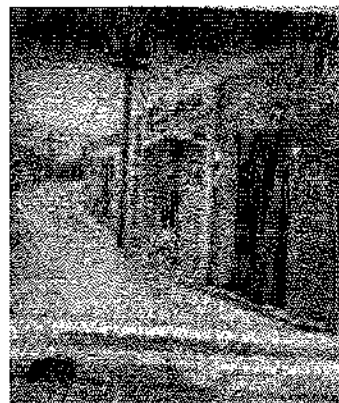
塩



那覇祭り



シーサー



ゴザ市

まとめ

この1年間を振り返ってみると、楽しかった思い出ばかりが頭に浮かびます。沖縄に留学する前は、異国の習慣の中でしっかりと暮らしていけるのかという心配ばかりしていたため、1年間という期間の長さにも重みを感じていました。しかし終わってみれば、驚くほどあっという間に過ぎてしまったという思いです。

毎日たくさんの人と出会いがある沖縄で、今日はどんな人と仲良くなれるのかと考えながら

暮らす生活には刺激があります。沖縄の方は本当に心が広く温かいです。これは沖縄に来た後に既に感じていましたが、今でも日々しみじみと感じています。壁を作らないと言うか人と人の心の距離が短いと思います。

この1年間の留學生活の楽しみの土台となっていたのだと思います。さまざまな人と出会うことの楽しみ、喜びを改めて感じさせてくれたことでもありました。沖縄に来て本当に良かったです。

留學生活の中で感じ、学んだこれら全ての事を忘れずに、これからの生活の中で活かしていけたらと思います！私にこのような貴重な機会を与えてくれた沖縄県庁、国際交流?人材育英財団、中琉文化経済協会、台北駐日経済文化代表処那覇分処に心から感謝の気持ちを申し上げます。



県費の留学生達



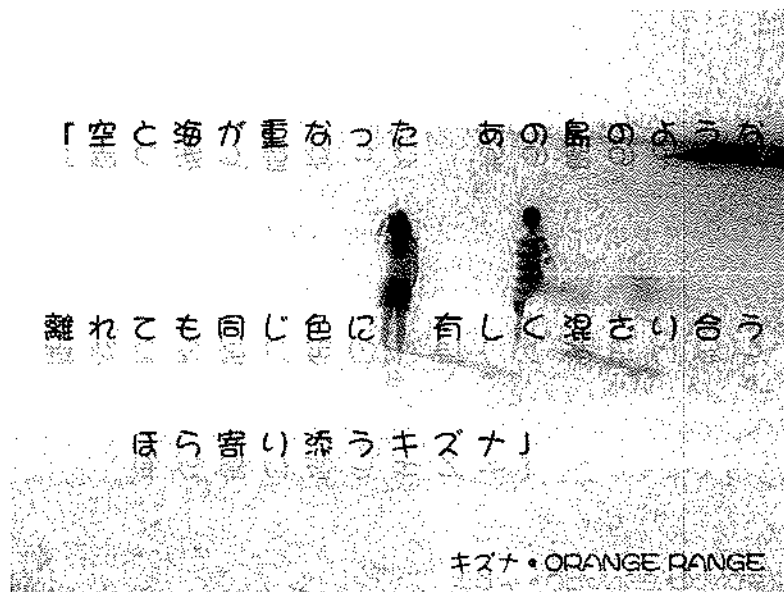
台湾の留学生



クラスの友達

沖縄の青空の下

苑 瑋文 (台湾)



沖縄出身の人気グループORANGERANGEは歌詞の中で望郷の思いをキズナで結ばれるように描きます。行間に参む「沖縄がどれほど大切な場所である」、サンシンの音色と沖縄独特なハイヤサッサッという掛け声が織り交ざったこの曲を初めて耳にした際、その強い感情が私の胸に響きました。

二度目の来沖の私にとって、沖縄は特別なふるさとのように感じるだろうとつい思っています。沖縄の血縁的ルーツを持つ北米、南米の県費生たちと異なり、時間とともに馴れ親しんできたこの土地を育ち故郷のひとつだと思うようになりました。

私が出たものは語学力と専門分野の知識だけにとどまらず、留学生活1日1日の中での、さまざまな文化、習慣、考え方や生活スタイルに至るまでであり、これからの人生においてもずっと影響していくであろうものです。

一、勉学

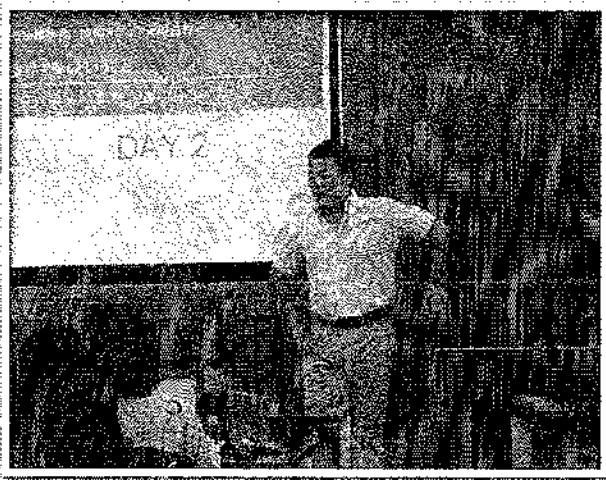
県費応募時に既に日本語能力検定一級の語学力を求められたけど、自分に日本語をいっそう流暢に使いこなすことを望んでいました。そのため、はじめの一学期には語学の勉強を優先し、主に留学生向けの日本語勉強が中心になる講義を受けました。授業面では、言葉だけではなく日本人の心、考えなども先生達から教えていただきました。「日本語演習」という履修した授業から、言語に表現される感情や対人関係を重視した日本語のしくみを捉え、より把握することができました。「日本語Ⅴ」では、小説を分析することを通じて、日本の社会通念と価値観について、深く探求する授業構成を行います。

語学は時間数が多く、宿題や課題も毎日あり、日本語を完璧に身につけるのには苦勞していましたが、効率の良さや吸収の速さを感じました。

留学の後半、他にも沢山の目標を掲げました。2学期目からは精神的にもだいぶ落ち着き、授業も語学習得だけのものとはいったん離れ、専門的な授業を専攻し始めました。元々文学部出身の私はここで経営学を勉強し、専門知識を広げた他、国際的な取り上げられている人と組織と自分自身興味のある方面でも数多くのことを学びました。主に人的資源応用論と、経営統計学、国際マーケティングなどの授業を登録し、そして聴講の形でマスコミ情報論というセミナーを受講しました。

その中で特に印象に残っているのは、現代の日本社会における就職氷河期や国際競争力を取り扱う経営組織論の授業です。沖縄で日本の社会問題を学ぶことで、台湾からでははっきりしない部分も見えてきたり、沖縄の教育機関には就職率低下という事実、そしてそのことに対する学生の意識の低さを検討したりと、得る事の多い授業でした。

留学生向けのコースに比べ、課題が多く大変だったので、ついていくのに必死でした。私の読むスピードが遅く、まじめに1ページ、1ページ一語ずつ確実に読んでいては、時間がけっこうかかりました。教授に質問があればどんな質問でも嫌な顔一つせず、聞いてくれるので努力が報われるという意味でやりがいがあった。結果がついてくると嬉しいからまた次も頑張れる、というふう非常にいいペースで勉強ができるようになりました。



現地の正規学生と一緒に一般の授業を受講したきっかけ、グループディスカッションをする機会が常にありました。日本人学生と討論するうちに、日本語に浸り切ったりして、スピーキング力を高めることに注力しました。そのうえに、意見の交換から産まれる違いが自分の理解と異なっていたとしても、相手の意見も受け入れ、広い視野を持つようになりました。

二、沖縄文化の学習

本土とは違う、沖縄は独自の歴史を形成し、独特のカルチャーを築いたのです。一括に言うと、混じった「チャンプルー文化」ということです。なぜかというと、王朝時代に琉球王国が貿易を根本にすることによって、中国、日本、東南アジアの文化と頻繁に交流し、そして戦後から復帰を経て現在の沖縄まで、アメリカ文化を取り込んだウチナーンチュのしたたかな生き

様になっています。伝統を生かしながら、今も常に新しいものを生み出し時代を超えて人々を魅了してやまない沖縄の文化に惹かれた私は、まさか「沖縄病に罹った」のかしら？！



沖縄博物館のふれあい体験室



左達の「サンシンの花」を弾いてる姿

◇ 重要文化財—首里城、中村家

沖縄におき、世界遺産に登録された幾つもの名所が常に注目を集めます。最も有名なものは首里城であり、沖縄を訪れる人が定番のスポットです。私と友人は冊封使行列を見る為に首里城に行きました。宮廷文化を再現するために、国王を任命する冊封儀式は首里城の御庭で行われました。歴史を振り返ると激動の時を刻んできたのがわかり、厳粛な気持ちもわき上がってきました。

授業のきっかけで、中村家を訪れました。中村家は沖縄伝統的な古民家代表のひとつです。沖縄の住居建築の特色をすべて備え持っていて、当時の上層農家の生活を知ることができます。石垣に囲まれた木造の家は昔ながらの瓦屋根の外観が一際目を引く他、屋根の上のシーサーも各家ごとの特徴を表現しています。特に台湾と同じく、先祖崇拜が中心的な宗教観の影響で、仏壇がある二番座が家の中心となるように配置されことは印象に深く残りました。



首里城の入り口



中村家のガイドさんが紹介しています

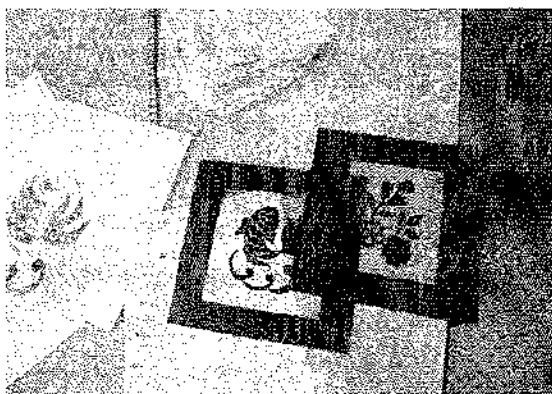
◇ 伝統芸能—紅型、サンシン

この一年間に渡って、いつもの観光を一步超え、より深く地域文化の魅力と触れ沖縄の伝統文化に触れてきました。沖縄事情という授業の先生の好意で、私達留学生が沖縄の代表染色技

法である「紅型」体験をさせていただきました。

講師の指導下で、用意された型を使い布に染めました。私が選んだのは写真に右手の花柄の絵でした。教室で色づけを終わらせてから一日寝かせ、糊を落としてできあがりしました。同じ型を選んでも色あわせが違ふと雰囲気も変わってくるので、自分の個性的な作品を作り出すのが楽しいでした。

新人賞を受けた友達からチケットをもらい、彼を応援しに行きました。参加者の年齢は幅広だったが、音楽に対する情熱は年を超えました。友達が日頃の練習の結果を見事に演奏しました。一生懸命三線を弾いて歌う彼はとても素敵でした。私も綺麗な歌声と三線の音色に聴き入っていて、これが時の経つのも忘れてしまうようないい鑑賞経験でした。



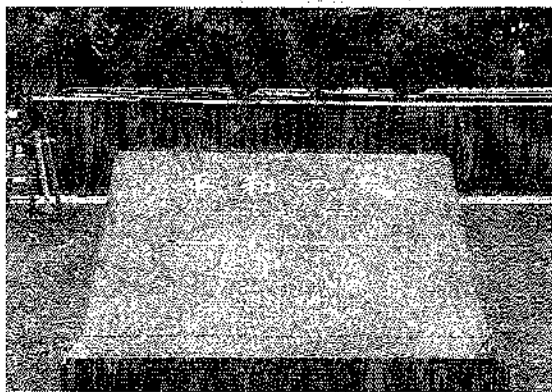
紅型の試作体験



民謡芸能祭

◆ 戦争から学ぶこと－平和記念公園、沖縄市

悲惨な戦争から学んできた最も大事な課題は平和を維持することだと思います。そのため、琉大の留学生同士と一緒に糸満における平和記念公園を観に行きました。入ってすぐに、展覧会場は重苦しい雰囲気に覆われていたことを覚えています。そこでは戦争で亡くなった若者の遺物が寄付され、展示されていて、当時の状況を忠実に反映していました。展示品を見ていた人々は、皆何も言わずに被害を受けた沖縄の悲惨な過去の黙想にふけていました。時々、まだ戦争の苦しさを感じられない年頃の子供たちも、この不自然な重苦しい空気をなんとなく感知し、親に小声で質問したり、自分で戦争の意義を考えたりしたのが、とても印象的でした。海側の広場にも、犠牲者の氏名が刻まれた銘碑があります。私が、ひめゆりの学生が海中へ投身



平和の礎



コザ市内の散策

したあの最南端の岬を見渡しなが、戦争によって持たされた苦痛を忘れずに、人類全体の幸福を確保すると心から祈っていました。

沖縄市は、沖縄県が日本に復帰する前はコザ市でした。米軍の影響を深く受けていて、米軍基地を中心に発展したレストラン、商店、また街道の両側に立てられた看板などからそのことがよく分かります。自分自身が沖縄にいるのを知りつつ、まるで異国に行ったかのような感じは非常に奇妙な経験でした。

太平洋戦争後の米軍統治時代ごろの歴史を保存するために、現地の市民たち館内に陳列された資料や文物など、多角的に当時のコザ市の光景を再現しました。

◆各種のイベント—ゆり祭り、花火大会

毎年ゴールデンウィーク前後の二週間ほど伊江島のゆりが見ごろのようです。ゆりが満開のうちに、私は本部港からフェリーに乗船し、伊江島を訪れました。当時リリーフィールド公園でフェスティバルもやっていて、ゆりが沢山綺麗に咲き、とても素晴らしい眺めだったと思います。園内を一周してから、のんびりと広いゆり園を時間をかけ、さまざまな彩りと甘い香り楽しんできました。

素敵な百合畑の中で色彩豊かなゆりの競演を満喫しました。



伊江島のゆりに囲まれた

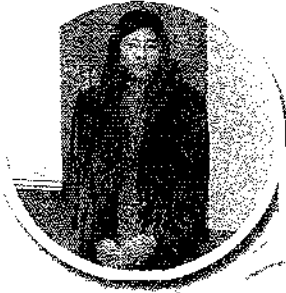
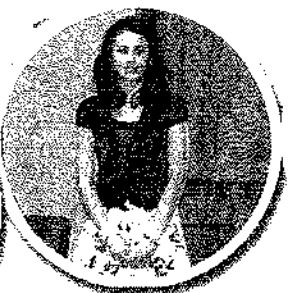


芝生に座ったまま花火を観賞

三、まとめ

留学中は自己と向き合うことの連続でした。新しい人や物事に出遭う度に自分はどのようにそれに向き合うべきか、と考えていました。自分は何ををしに沖縄に来たのだろう、将来私はこの経験をどう生かせるのだろうということも常に考えていたので、そろそろ帰る日を迎える今、留学中に考えていたこれらのことは自己分析という点で意義があったと思います。今はこの留学の経験を、ただ楽しかったで終わらせないで、将来を見据え、次のステップにつなげられるようにしたいと考えているところです。最後に、沖縄県庁、沖縄国際交流人材育成財団、琉球大学のおかげで、このような素晴らしい経験をさせていたたぎ、誠にありがとうございました。大変お世話になり、心から感謝の気持ちを申し上げます。

理事長表敬スナッフ写真



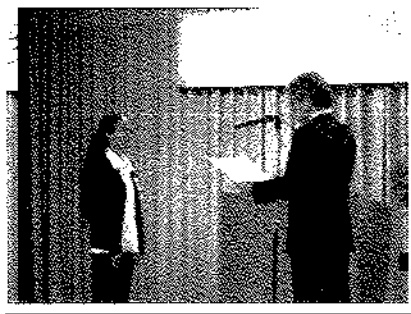
副知事表敬スナッフ写真



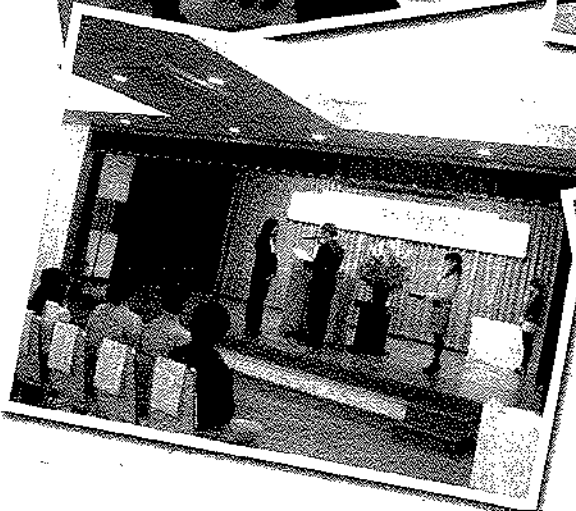
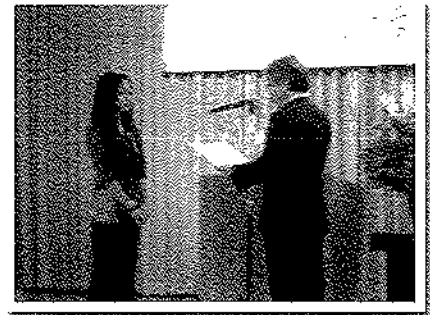
定例会スナック写真



修了式スナック写真



修了式スナップ写真



平成22年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL：098-942-9215

FAX：098-942-9218

